

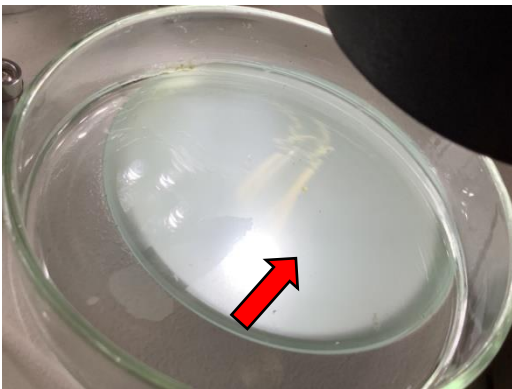


5年「魚のたんじょう」メダカの卵  
6年「動物のからだのはたらき」  
肺 血液のはたらき 心臓

## メダカの産卵シーズンを逃さない!“今”を教材にする

5月下旬から6月中旬までがメダカの産卵時期です。南郷里小のビオトープ(1は教室から幸寿の泉へ出たところ)も産卵が始まり、理科室の水槽2つ(現6年生が昨年育てたメダカ)のメダカからも見つかりました。これを逃すと、産卵したその日の卵の観察のチャンスを逃してしまいます。直物の成長条件の実験結果を待つ間に、「魚のたんじょう」授業を前倒しで計画し、今日から始めました。

また、中谷財団法人様より、今年度も(助成事業3年目)助成をいただき、**双眼実体顕微鏡5台と生物顕微鏡アトマⅡを5台新調致**しました。これで、**全ての班に2台以上の双眼実体顕微鏡が使える**、1台は**LED搭載**で鮮明に生き物を観察することができます。**2人に1台、班によっては1人1台の顕微鏡が使用可能**になりました。これほど顕微鏡の環境が整った理科室は市内にも少ないのではないのでしょうか。さらに理科の観察を充実させ、どの児童にも**ピント調整**や**タブレット撮影**など、顕微鏡が正しく使え、ICTを効果的に学習に活用できるよう、授業改善を図っていきたいと思います。



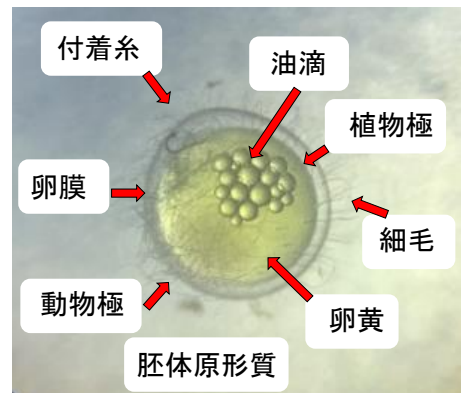
シャーレに乗せた1粒のメダカの卵(1日目)

- ・卵の大きさは1.5mm
- ・指先でつまんで転がしてもつぶれません。つぶれるのは無精卵で稚魚になりません。



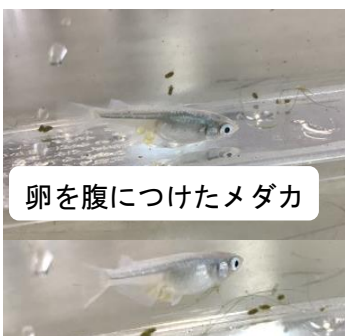
タブレットを接眼レンズに当てて撮影

- ・あえて成長した卵と並べて観察させ、どのように育つか問題を見いだします。
- ・「**1つの卵から何匹産まれるのかな?**」と聞いてきた児童がいました。これはすごい質問。すぐには答えません。卵を育て観察しながら、調べてみようね。と返しました。



全ての部位が観察できました

- ・卵膜にたくさんの細毛がある。
- ・卵を水草に付ける附着糸がある。
- ・植物極と動物極があり、植物極に油滴(稚魚の腹にある栄養)が集まる。油滴は、やがて1つになる。
- ・胚体は油滴と正対側にある。



卵を腹につけたメダカ

